

リリースノート



Trimble® Access™ ソフトウェア

バージョン 2016.00
改訂 A
2016 年 4 月

法的情報

Trimble Navigation Limited
Engineering Construction Group
935 Stewart Drive
Sunnyvale, California 94085
U. S. A.
www.trimble.com

著作権と商標

© 2009-2016 年, Trimble Navigation Limited.
All rights reserved.

Trimble、地球儀と三角形のロゴ、Autolock、CenterPoint、Geodimeter、GPS Pathfinder、GPS Total Station、OmniSTAR、Terramodel、Tracklight、TSC2およびxFillは、米国登録商標特許庁に、そしてその他の国々で登録されたTrimble Navigation Limited の登録商標です。

Access、FastStatic、FineLockGX、RoadLink、TerraFlex、Trimble Business Center、Trimble Geomatics Office、Trimble Link、Trimble RTX Trimble Survey Controller、Trimble Total Control、TRIMMARK、VISION、VRS、VRS Now、VXおよびZephyrは、Trimble Navigation Limitedの商標です。

RealWorksはMensi SAの登録商標です。

Microsoft、ActiveSync、Windows、Windows Mobile、Windows Vistaは、米国またはその他の国、あるいはその両方におけるMicrosoft Corporationの登録商標または商標です。

Bluetooth という言葉のマークやロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有しており、Trimble Navigation Limited は許可を受けてそれを使用しています。

Wi-FiはWi-Fi Allianceの登録商標です。

その他の商標はそれぞれの所有者に帰属します。

この文書の目的は、あくまで情報を提供することにあります。Trimbleは、本書内で明示的、黙示的かを問わず、何の保証も行っておりません。

目次

Trimble Access	4
一般測量	5
パイプライン	15
道路	17
トンネル	18
Trimble Installation Manager	19
AccessSync	20
GNSS予想	20
インストール情報	21

このリリースノートには、Trimble® Access™ソフトウェア バージョン 2016.00についての情報が掲載されています。

Trimble Access

Trimble Access Liteに代わるTrimble Access GNSS

Trimble Accessのバージョン2016.00により、既存のTrimble Access Lite搭載Trimble TSC3およびTrimble Access Lite搭載Trimble Slate Controller コントローラは、対応GNSS受信機およびTrimble V10イメージングローバの全ラインナップとともに使用できるようになりました。以前は、これらのコントローラはGNSS受信機のサブセットに対応していました。

TSC3「Lite」およびSlate「Lite」コントローラのパーツのパーツ番号の説明は、GNSS対応の変更を示すように更新されましたが、パーツ番号自体は変わっていません。

説明では、「Lite」が「GNSS」に変わり、

パーツ番号 (変更なし)	新しいTrimble Access GNSSコントローラの説明
TSC3-02-1012	Trimble Access GNSS搭載Trimble TSC3、内蔵2.4 GHz無線機なし、ABCDキーパッド
TSC3-02-1022	Trimble Access GNSS搭載Trimble TSC3、内蔵2.4 GHz無線機なし、QWERTYキーパッド
SLT-01-1000	Trimble Access GNSS搭載Trimble Slateコントローラ
SLT-01-1100	Trimble Access GNSS搭載Trimble Slateコントローラ、拡張バッテリー

Trimble Access GNSSパーツのGNSS対応が強化され、対応GNSS受信機とTrimble V10イメージングローバの全ラインナップに対応できるようになりました。

トータルステーションへの対応を追加するには、TA-UPGRADE-IS-Pを購入し、Trimble Access GNSSコントローラをTrimble Access統合測量コントローラにアップグレードしてください。

TA-UPGRADE-IS-PアップグレードされたTrimble Access GNSSコントローラは、全装備Trimble Accessコントローラと機能的には全く同じになります。

TSC2コントローラがサポートされなくなりました

Trimble Access のバージョン2016.00以上は、コントローラのソフトウェア保証ステータスを問わず、Trimble TSC2コントローラにインストールできません。昨年、TSC2プラットフォームは、Trimble Access最近のバージョンにはスペック不足であることが分かりました。Trimble Access の開発を継続するため、新しいバージョンのTrimble AccessのTSC2コントローラへのインストールをサポートすることができなくなりました。

TSC2コントローラは、Trimble Accessのバージョン2015.22は継続して実行することが可能です。

一般測量

本節では、特徴、改善点、解決された問題などについて説明します。これらは他の Trimble Accessアプリケーションにも適用されます。

新しい特長 と機能の強化

オフセットの杭打ち

新たなオフセット杭打ち機能により、ポイントやライン、円弧、線形からのオフセットを設定する形で位置を杭打ちできるようになりました。ポイントの場合、オフセット位置は方位角、水平距離および高度によって定義されます。ラインや円弧、線形の場合、オフセット位置は方位角または偏向角、水平距離または高度によって定義されます。

ポイントの場合で、目的のポイントにナビゲートするときは、グラフィック表示内のソフトキーの2列目からオフセットをタップします。以下が該当します：

- オフセット方向は、選択されたポイントからの方位角によって定義されます
- オフセット距離は、選択されたポイントからの水平距離によって定義されます
- オフセット位置の高さは選択されたポイントの高さからの勾配あるいはデルタによって定義されます。または値をキー入力することもできます。

2つ目のオフセットは、1つ目のオフセットと同一方位角上にあり、距離と高度は元の位置から定義されます。

ラインや円弧、線形の場合、ライン／円弧／線形からの局／スキューのオフセットから杭打ちオプションを選択します。以下が該当します：

- オフセット方向は、ライン、円弧、線形上のステーションから方位角、または選択されたステーションに対して直角のラインの前方または後方の偏向角により定義されます
- オフセット距離は水平距離によって定義されます
- オフセット位置の高さは選択されたステーションにおける位置の高さからの勾配またはデルタによって定義されます。または値をキー入力することもできます

ターゲットの機能強化

一般測量で、以下を行うことができるようになりました。

- 一般測量用ターゲットの表示名を定義する。
- 最大10個の異なるターゲットを作成する。
- どの画面からでも「Ctrl + P」のキーボードショートカットを使用し、プリズム一覧を表示させ、さらにキーボード矢印を使用し、使用ターゲットを選択する。

DTMオフセット

DTMオフセット値をDTM表面に対して直角に適用することができるようになりました。以前は、常に鉛直になっていました。このオプションは、DTMの杭打ち時、およびポイント、ライン、円弧、線形、道路をDTMを基準に杭打ちしているときに使用することができます。

表面に対する鉛直オフセットのサポートの簡素化

Trimble Accessでは、表面に対する鉛直オフセットの同時に使用可能な数が1つに限定されるようになりました。旧バージョンでは、複数の場所で異なるオフセットを設定することが可能で、それぞれが異なる方法で適用されていました。

鉛直オフセットは、次のいずれの場所からも変更可能です：

- マップの「オプション」画面内の「表面の鉛直オフセット」フィールド
- 「DTMの杭打ち」画面内の「鉛直オフセット」フィールド
- その他の杭打ち画面内の「DTMへの切土／盛土の表示」および「DTMへの鉛直オフセット」フィールド
- 測量スタイル内の「DTMへの切土／盛土の表示」および「DTMへの鉛直オフセット」フィールド

これらいずれかの画面で鉛直オフセットを変更すると、変更内容がTrimble Accessソフトウェアの全画面に反映されます。例えば、マップ内にDTM1への切土／盛土の表示させている場合で、DTM2を杭打ちしているときは、どの時点でも1つの鉛直オフセットだけが両方のDTMに適用されます。マップまたは杭打ち画面でオフセットを変更すると、他の画面のオフセットが更新されます。

TTM表面の変更

マップにおいて、三角形を削除することによってTTM表面を変更することができるようになりました。これは不規則な形の区域の土量計算を行う際に非常に役立つ場合があります。マップ上からトライアングルを一つないし複数選び、タップ&ホールドメニューから選択した三角形を削除を選択してください。

詳しくは、[一般測量ヘルプ](#)の表面と土量の項目をご参照ください。

タブレット上でのジェスチャーサポート

タブレットのユーザは、ジェスチャーを使用し、3Dマップの拡大縮小のほか、任意の方向へのパンニング（移動）を実行することができるようになりました：

- 拡大縮小:2本の指で画面に触れ、ピンチイン（指を近づける）またはピンチアウト（指を離す）操作を行います。
- パンニング:2本の指で画面に触れた状態でスライドさせて、目的の方向に表示範囲を移動させます。

メモ - 3Dマップを無効にし、2Dマップに戻すと、ジェスチャーは使用できなくなります。

アプリケーションが大型タブレットディスプレイの全画面モードで使用可能になりました

画面のサイズがTrimble Tablet（1024 x 600画素）よりも大型のタブレットのユーザは、全画面モードでTrimble Accessアプリケーションを使用できるようになりました。全画面モードは、左上コーナーのTrimbleアイコンからオフにできます。

メモ - Trimble Accessランチャー画面は、全画面モードでは作動しません。ランチャー画面のサイズは常に1024 x 600画素になります。Trimble Accessアプリケーションが全画面モードで作動していないときに、左上コーナーのTrimbleアイコンをタップすると、他のTrimble Accessウィンドウと重なるようにランチャーの位置が自動的に移動します。

AccessVisionに対応した測定コード画面





測定コード画面がAccessVisionに対応するようになりました。AccessVisionは、現在の画面の中にマップビューとビデオビューを取り入れ、即座に視覚的なフィードバックを提供し、画面を何度も切り替えて見る必要をなくしました。AccessVisionと測定コードを合わせて使用している場合は、新しいポイントの特徴をすぐにマップ上で見ることができ、コードの表示を有効にしていれば、その横にコードも表示されます。選択した特徴コードに線画を追加した場合は、線画がマップに追加されるのを見ることができます。

メモ - AccessVisionはタブレットコントローラ上でのみサポートされています。

さらに詳しい情報につきましては [一般測量ヘルプ](#) の測定コードの項目をご参照ください。特徴コードへの線画の追加についての詳しい情報につきましては、[一般測量ヘルプ](#) の特徴ライブラリの項目をご参照ください。

3Dマップレイアウトの向上

3Dマップのレイアウトが向上し、インターフェースがさらに効率化されました。変更点は以下の通りです：

- マップツールバーの表示ボタン  をタップし、プルアウトメニューから該当するカテゴリを選択することで表示オプションにアクセスできるようになりました。設定、スキャン、フィルター、レイヤーおよびパンニングから選択します。
- 表示オプションがマップツールバーからアクセスできるようになったため、AccessVisionの画面からマップ表示オプションにアクセスできるようになりました。
- 予め定義されたビューボタンのアイコンが  に更新されます。
- 3D/2D切替ボタンはマップツールバーからなくなりました。以下の目的のために実行すること：
 - マップを2Dで表示するには、予め定義されたビュー ボタン  をタップし、それから平面を選択します。
 - 平面 ビューから3Dマップを表示するには、軌道ボタン  をタップします。
 - 3Dマップを無効にし、2Dマップに戻すには、オプションをタップし、それから3Dマップチェックボックスをクリアします。

杭打ち済みポイント名に接頭辞または接尾辞を追加

杭打ち済みのポイントの保存時に、杭打ち済みの名前に接頭辞または接尾辞を付けられるようになりました。接頭辞または接尾辞は、測量スタイルの定義時に、または杭打ち時にオプション画面から設定します。

ポイントをインポートする際のポイント保存オプションの複製

コンマ区切りファイルをインポートする際、新しいポイントアクションを複製フィールドを使用すると、ジョブ内の既存ポイントと同じ名前のポイントがどのようにインポートされるのかを決めることができます。次を選択します：

- **概要** — インポートされたポイントを保存し、同じ名前の既存ポイントをすべて削除したいとき。
- **無視する** — 同じ名前のインポートされたポイントを無視し、インポートされないようにしたいとき。

- 他を保存する — インポートされたポイントを保存し、同じ名前の既存ポイントをすべて保持したいとき。

座標が似通っていても名前の異なる複数ポイントの近似性チェックの許容範囲

単にポイント名を基に重複ポイントについて警告を出す代わりに、既にジョブ内に存在するポイントに座標の似通ったポイントを保存しようとした際、警告を受け取るようにソフトウェアを設定できるようになりました。この近接性チェックにより、同じ位置にあっても名前の異なる複数ポイントを測定してしまうことを防ぐことができます。

水平、鉛直共、許容値を設定できます。ジョブ内に存在する観測ポイントの水平許容範囲内にある座標を持つポイントを保存しようとする時、それら2ポイント間の許容距離と測定済み水平距離を示す警告メッセージが表示されます。続行して測定結果を保存するか、キャンセルするか選択することができます。

鉛直許容値を使用すると、新しく測定するポイントが既存のポイントの上または下にあつて、実際に異なる高さにある場合に（鉛直の縁石の上と下など）、近接性チェックの警告を避けることができます。

詳しくは、[一般測量ヘルプ](#)の重複ポイント許容範囲の項目をご参照ください。

GNSS測量時にポイントを測定する際の鉛直オフセット


GNSSポイントの測定時に鉛直オフセットを追加できるようになりました。鉛直オフセットを適用するには、[測定ポイント オプション](#)画面から鉛直オフセットの追加そして測定ポイント画面で鉛直オフセットフィールドに値を入力します。鉛直オフセットは、ジョブのレビュー時に、必要に応じて記録したり編集したりすることができます。

マップ内LandXMLファイルからの線形の表示

LandXMLファイル内の線形がマップ上に表示できるようになりました。線形を選択してから、以下を行うことが可能になりました：

- 道路アプリケーションを使用して道路として線形を杭打ち
- 一般測量を使用してそれを線形として保存または杭打ち

マップ上とビデオ画面上でのポイントの絞り込み

ポイント名、コード、説明（有効な場合）およびマップ上（3Dまたは2Dマップ）やビデオ画面のメモなどによってポイントを絞り込むことが可能になりました。マップやビデオ画面から、フィルタの選択画面に進み、 をタップするとワイルドカード検索画面が表示されます。

ユーザー定義座標系の名付けの改善

旧バージョンのTrimble Accessでは、座標系ライブラリから選択された座標系を使用するジョブを対象に座標系詳細を編集する際、プロジェクト高度やジオイドモデルといった詳細を編集すると、座標系の名称が「ローカルサイト」に変更されていました。

今回のアップデートでは、座標系がライブラリから選択される場合、「座標系」フィールドに「ゾーン名（系の名称）」と表示されるようになりました。可能な限りにおいて、Trimble Accessは、座標系の名称を修正するだけにとどめ、幾つかのユーザー優先設定が定義されたことを示すようにします。なお、次の点にご注意ください：

- ジオイドモデルやプロジェクト高度を変更しても、座標系の名前は変更されません。
- 投影または測地系パラメータを編集すると、座標系の名前が「ローカルサイト」に変更されます。
- GNSSサイト較正を実行すると、座標系の名前が「ゾーン名 (サイト)」に変更されます。
- 水平調整または鉛直調整のパラメータを編集すると、座標系の名前が「ゾーン名 (サイト)」に変更されます。

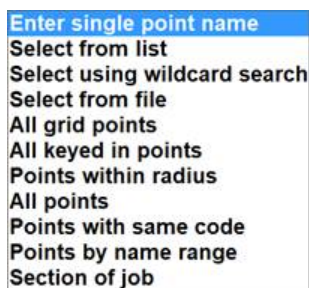
フィートおよびインチでの距離表示

距離が米国の測量フィートまたは国際フィートに設定されている場合、距離の表示単位をフィートおよびインチに設定することができるようになりました。1インチ以下の分数単位は、1/2"、1/4"、1/8"、1/16"および1/32"がサポートされています。

変換を定義する際のポイント選択の改善

変換の回転／スケール／転換を定義する際、選択画面で利用可能なポイント選択方法を使用し、変換するポイントを選択できるようになりました。

選択方法にアクセスするには、追加ソフトキーをタップします。使用可能なポイント選択方法を示す選択画面が表示されます：



過去にマップ内でポイントを選択したことがある場合、選択されたポイントが自動的に一覧に読み込まれます。必要に応じ、使用可能な選択方法から1つまたは複数の方法を使用し、さらにポイントを追加することも可能です。

リスト内でポイントの並べ替え

選択元のポイントリストを表示しているとき、列の名前をクリックすると、ポイントの名前やコードで並べ替えることができるようになりました。

リストからのポイントの削除

以下の用途に対してポイントリストを作成しているときに：

- 杭打ち
- 平面上でのポイント測定
- トラバース閉合差の計算およびトラバースの調整
- キャリブレーション
- 変換（回転、縮尺、転換）
- 変換（ヘルマート、7パラメータ）

Delete (消去) ソフトキーは Remove (削除) に名前が変わりました。ポイント自体が消去されるわけではなくリストから取り除かれるだけだからです。オプションによってはすべて消去ソフトキーがある場合もあります。これもすべて削除に名前が変わりました。

マップとビデオ機能への色の追加

色彩幅が拡大し、以下の点において一貫性が向上しました:

- クラウドカラー Trimble VISIONテクノロジーを搭載している機器によるスキャニング時
- オーバーレイカラー ビデオ画面での測定時
- マップ上のラベルカラー

ファイルの追加時に最近使用したフォルダを記憶

ファイルをジョブに追加するときに、例えばファイルをジョブにリンクさせた場合、初期設定により最近使用したフォルダを開くようになりました。

データのジョブ間でのコピー

データを一つのジョブから別のジョブにコピーするとき、コピー元のジョブを選択する際に現在のジョブとは別のフォルダに保存されているジョブへもブラウズすることができるようになりました。

ファイルのエクスポート

ファイルのエクスポート後に、確定フォーマットのエクスポート または カスタムフォーマットのエクスポート画面がそのまま開くようになりました。複数のファイルを一度に生成したり、レポートすることが容易になりました。


「社内用」特徴コード属性への対応

特徴定義マネージャを使用して作成された特徴コード属性の中で、入力モードが社内用に設定されている属性がTrimble Access読み取り専用の属性として表示されるようになりました。以前は、これらの属性は表示されませんでした。

ステーション設置中のポイント名の自動増加

ステーション設置の実行中に、機器に対してポイント名を初期設定し、それを自動的に増加させることができるようになりました。さらに詳しい情報につきましては [一般測量ヘルプ](#)の ステーション設置の項目をご参照ください。

コンペンセータ無効ステータス

機器の電子気泡管が無効になっているとき、コンペンセータ無効のアイコン  がステータスバーの機器アイコンに、気泡管アイコンが機器機能画面に表示されるようになりました。

ジオメータ出力角度の小数点の位置

GDMデータ出力 オプションは、ジョブ / ジョブのプロパティ / 単位 画面の 角度表示 設定を反映するようになり、水平角と鉛直角の記録が最大の小数点以下5桁まで出力できるようになりました。

ガリレオ衛星を使用したRTX

RTX測量にGalileo衛星の捕捉を選択できるようになりました。さらに詳しい情報につきましては、[一般測量ヘルプ](#)のRTXの項目をご参照ください。

RTXインターネット補正

GNSSコンタクトで、「RTX (TGIP) を使用」チェックボックスが「RTX (インターネット)」チェックボックスに置き換えられました。このチェックボックスが選択されているときは、「マウントポイント名」フィールドが表示されます。ご利用のRTX受信契約に適したマウントポイントを選択します。「RTXIP」マウントポイントはグローバルRTX補正用で、他のマウントポイントはそれぞれ特定ネットワーク対象地域に固有のものとなります。RTX受信契約に関する情報をお求めの際は、Trimble Positioning Servicesにお問い合わせください。

RTCM変換メッセージを無視する

サポート対象外の変換投影を含んだRTCM放送データストリームに接続している場合、警告メッセージが表示されます。今回のアップデートで、「無視する」ボタンがメッセージ画面に表示されるようになりました。これを使用し、これらのメッセージの受信をやめることが可能です。

GNSS auto connect on tablet controllers

We now disable GNSS autoconnect on the tablet controller when it is connected to a conventional instrument or when Trimble Access is attempting to start a conventional survey.

座標系データベース更新

- ドイツUTMゾーンの測地系がETRF89に設定されました。
- ドイツの座標系は、Ascot、Bayern-Soldner、DB、GKおよびUTMのグループに再構成されました。
- バルバドス、ナパリマ、トバゴ、トリニダドに対し、測地系変換が追加されました。
- EGM 2008トリニダド・トバゴ・ジオイドモデルが追加されました。
- ゾーンの更新が行われた地域：
 - ブラジル
 - インディアナ郡
 - アイオワ郡
 - ウィスコンシン州
- アイルランドのゾーン名称を変更しました。

解決された問題

- 勾配フィールドの無効な単位:勾配フィールドに「 gonは無効な単位です」というエラー警告が表示されていた問題が解決しました。この問題は、英語版以外のTrimble Accessだけに特有のものでした。

- 新規ジョブ内の単位: 新規ジョブを作成する際、座標系を選択したりキー入力したりする前に距離および高さの単位が変更されると、間違った単位でグリッド座標やプロジェクト高度が表示される問題が、解決されました。
- ポイントマネージャ: ポイントマネージャ内の「削除済みポイントの表示」のオプションを解除すると、展開時のツリー表示内の削除済み重複ポイントを非表示にし、かつポイントマネージャのトップレベルの削除済みポイントを非表示にするようになりました。
- 座標計算内のマップポイント選択の使用: マップ上でポイントを選択し、座標計算メニューに切り替えたときに、選択したポイントを使用する選択ができなかった問題は解決されました。この問題は、Trimble Accessバージョン2015.10から始まりました。
- マップ: 以下の問題が解決されました。
 - マップからのポイントのキー入力: マップからポイントをキー入力できなかった問題。この問題は、メインメニューでポイントのキー入力を選択された後に、with ポイントのキー入力はまだ開いている状態で、マップに切り替え、メニューをタップ & ホールドしてポイントをキー入力しようとしたときにのみ発生していました。
 - DXFファイル内のエンティティ: カスタム座標系で定義されたエンティティが表示されなかったり、正しく表示されなかった問題。
 - DXFファイル内のブロック: マップを所定の範囲にまで拡大縮小した際、拡大縮小された挿入ブロックを含んだDXFファイルが正しく表示されない問題を解決しました。
 - マップ内の円弧: 道路定義内の円弧が時折、ラインとして描画される問題。この問題は、タブレット使用時、3Dマップで道路を確認する際や、道路ソフトウェア内で道路を再確認する際に限定された問題でした。
- 3Dマップ: 以下の問題が解決されました。
 - テキスト情報の表示の改善: 3Dマップに表示されるテキスト (文字) 情報の外見および動作が改善されました。
 - ポイントの高さ: ポイントの高さは該当するポイントの近くに表示されるようになりました。この問題は、表示するコードがないときに発生していました。
 - 3Dマップが間違ったGNSS位置を示す: GNSS測量で位置を測定する場合で、傾斜ビューで3Dマップを表示させるとき、測定された位置がマップ上の正しい位置に表示されませんでした。この問題は、「アンテナ高さ」フィールドに0.00という数値が入力された状態で測量を開始した後、さらに3Dマップをいったん閉じずにアンテナ高さの数値が編集された場合にだけ発生する問題でした。
 - マップの範囲外のGNSS位置情報: マップを開いたときに、現在のGNSS位置情報がマップの範囲外にあると、現在位置が画面の中心になるようにマップが自動的にパンされませんでした。
 - GNSS位置情報が更新しない: 統合測量中に、アンテナがフィールドで移動しても、3DマップのGNSSのアイコンが更新されませんでした。
 - 重複するポイントの表示: 重複するポイントの測定時に3Dマップに同じポイントが「平均ポイント」と「平均回転角」として表示されていました。実際は「平均ポイント」のみが表示されるべきでした。

- ポイントが選択不可: コードがある二つ以上のポイントを3Dマップから選択し、レビューした後に、3Dマップからポイントを選択できなくなっていました。
- 空のマップ: タブレットを一時停止したのちに再度使用すると、マップが空になり、Escキーだけが有効になっていました。
- 合成曲線の制御コード: 制御コードを使用して合成曲線を作成するときに線画が正しく描かれなかった問題は解決されました。この問題は、Trimble Accessバージョン2015.10から始まりました。
- 円弧の制御コード: 連続する円弧を定義するためにコード付けされているポイント(終了円弧と開始円弧の制御コードが同じポイントに対して定義されている場合)の問題は解決されました。以前は二つ目の円弧の代わりに赤い点線が描かれていました。
- ラインおよび円弧のオフセットに使用する制御コード: 次の問題が解決されました:
 - 「正接の円弧の終了」制御コードと同時に「結合シーケンスの開始」制御コードを使用した際、オフセットラインを含むすべてのラインが正しく描かれるようになりました。旧バージョンでは、円弧の終点に続くラインは、円弧に対して接線の方向になっていませんでした。「結合シーケンスの開始」制御コードが、円弧の終点よりも後の最初のポイントに使用された場合にも、これと似た問題が起きていました。
 - 次の場所・状況で、オフセットラインが正しく描かれるようになりました:
 - 円弧の終点とラインとの交点のうち、ラインが円弧に対して接線の方向になっていない箇所。旧バージョンでは、オフセットライン同士は重なり合わせたり、つなぎ合わせることができませんでした。
 - 1つの円弧の終点と、別の円弧の開始点との間。旧バージョンでは、オフセットラインが描かれていませんでした。
 - オフセット数値が連続ポイントに対して同一でない場合。旧バージョンでは、半角は正しく計算されていませんでした。
- 横断面ビューでの線形の杭打ち: 横断面ビューで線形を杭打ちする際、余計な「自動測定」チェックボックスが表示される問題が解決されました。
- 線形上の局による杭打ち: 線形上の局を杭打ちする際、「杭打ちされた状態のデルタ」画面に元の高度がゼロと表示され、元の高度を再読み込みすることができない問題が解決しました。この問題は、オフセットを使用して杭打ちする場合にのみ発生していました。
- 表面から表面までの土量: 土量計算画面の初期表面 および 最終表面フィールドで選択された表面の名前が、ジョブのレビュー画面やJobXMLファイル出力において反対に表示される問題は解決されました。計算された土量は最初の選択に従って正しく行われていました。
- CMRx補正の一時停止: 「一時停止」をタップして接続を切断した後、さらに基準局を再ダイヤルした際、補正情報の流れが一時停止されない問題が解決されました。
- インターネットRTK測量: マウントポイントを選択後、測量が開始されないという、NTRIP v2.0サーバへの接続に関する問題を解決しました。

- 重複するT02ファイル: 後処理されたロギングファイルのファイル名が異なるジョブフォルダ内で重複していた問題は解決されました。この問題は同じ日に複数のジョブがPPK測量で使用されていたときにのみ発生していました。
- スキャンを開始する際の通信に関する問題: 新たな欧州LBT (listen-before-talk) 規制 (ETSI 1.8.1) に準拠する目的で、Trimble Sシリーズの機器およびTrimble Tabletに、2015年3月ごろより、新しいタイプの無線機が段階的に導入されています。この変更に伴い、新しいタイプの無線機が搭載されたコントローラは、スキャンを開始しようとした際、通信上の問題に遭遇することがあります。
- 測定のスナップショット: 測定時にスナップショットを撮影すると、元の画像が保存されなかった問題は解決されました。この問題は、画像に十字線が追加された場合にのみ発生していました。
- 高速スキャン: Trimble VX Spatial Station やTrimble S7またはS9トータルステーションによる高速スキャンの実行時に、オフセット間隔によって定義されているすべてのポイントが計算されず、従ってこれらのポイントは測定されなかった問題を解決しました。
- Trimble M3トータルステーションを接続する際に間違っ表示されるバッテリー残量低警告: Trimble M3トータルステーションに接続すると、Trimble Accessソフトウェアにバッテリー残量低警告が短い間隔で表示されていた問題を解決しました。
- HA較差を表示する交合法で求めた前視ポイント: 交合法での既知の位置が存在しないにもかかわらず、交合法によって求めた前視ポイントがHA較差を表示する問題が解決されました。
- eLevel画面からのEsc操作: Escをタップしても画面を閉じることができず、再度機器の水平出しの必要があった問題は解決されました。
- ジョイスティック: AccessVision画面内のジョイスティックを制御するのにコントローラキーを使用する際、別のキーを押すまでの間、機器が回転し続けたり、ソフトウェア画面内の矢印キーが強調表示されたままになる問題が解決しました。
- Trimble SシリーズおよびTrimble CUを使用した円形オブジェクト: 接線二分法を使用して円形オブジェクトの中心を計算する際に、観測ができず、機器ディスプレイがロックされていた問題が解決されました。この問題は、Trimble CUコントローラを使用するTrimble Sシリーズのトータルステーションの場合のみ発生していました。
- Trimble CUキーの繰り返し: Trimble CUコントローラにおいて、キーボード上の一つのキーを押すと、時折キーが何度も押されたようにソフトウェアが動作していた問題は解決されました。この問題が解決したことにより、一般測量の起動時に文字の繰り返し設定は必ず無効になるようになりました。
- AccessVision: AccessVision画面の表示の際の以下の問題が解決されています:
 - マップやビデオ画面を再度開いた場合の表示の迅速化: 複数のAccessVision画面を開いているときに、一つのAccessVision画面上のマップやビデオ画面を閉じ、別のAccessVision画面上のマップやビデオ画面を開いた場合のマップやビデオ画面のコンテンツの表示がより早くなりました。
 - 地形測定画面が正しく終了しない: 地形測定画面をビデオまたはマップ画面が表示されている状態で使用しているときに、ポイントの測定または保存時に地形測定画面が正しく描き直されませんでした。
 - 測定のスナップショット: 地形ポイントを測定のスナップショットを選択した状態で測定しているときに、スナップショットが撮影されませんでした。この

問題は、AccessVisionのグラフィック表示が非表示になっているときにのみ発生していました。

- タブレットでの属性の保存:一つのポイントの属性の保存後にTrimble Accessランチャー画面が表示されていた問題は解決されました。ソフトウェアがGeneral Surveyのポイントの測定画面に戻るようになりました。
- パノラマ進行画面: Trimble VISION技術を搭載した機器を非Tabletコントローラと併用する際、「スキヤニング」画面の2ページ目からパノラマを開始すると、パノラマがキャプチャされるにもかかわらず、進行画面が表示されない問題が解決されました。
- アプリケーションエラー: 次のいずれかを実行した際、時折見られたアプリケーションエラーが解決されました:
 - 「ノートのキー入力」画面が開いた状態で、一般測量を閉じる。
 - 縮尺のみのジョブで、ラスタ背景図を追加してから **軌道** ボタンを3Dマップ上でクリックします。この問題が影響したのはいくつかのラスタ画像ファイルのみでした。
 - 3Dマップ内での大きなラスタイメージの使用。これらファイルの使用時、ソフトウェアのパフォーマンスが改善されました。
 - 交合法で測量を行う際、ESCをタップする。
 - ポイントの属性フィールドにゼロの日付けが含まれるジョブからDXFファイルをエクスポートする。
 - コントローラのメモリが極端に不足している場合、マップが応答しなくなった後、ソフトウェアが強制終了することがありました。ソフトウェアを再起動するのに、コントローラのバッテリーをいったん取り外してから挿入し直す必要がありました。

パイプライン

新しい特長 と機能の強化

「1つ進む」「1つ戻る」を使用する際に表示される継ぎ手マップの順序を選択します。

継ぎ手のマッピングを実行する際、継ぎ手の表示を1つ進めたり戻ったりするときに、継ぎ手マップを、記録時の「ファイル順」で表示するか、「配列順」で表示するかを選択できるようになりました。「ファイル順」は、現場で記録された順序で継ぎ手マップを表示し、「配列順」は、前方の継ぎ手および後方の継ぎ手のIDを照合することによりより並べ替えられた順序で継ぎ手マップを表示します。初期設定は「ファイル順」となっています。これは、余分な処理が不要なことから、「配列順」と比べ、サイズの大きいファイルをより速く表示できるためです。

「継ぎ手マップリスト」か、「継ぎ手マッピングレポート」のいずれからのファイル形式を使用してレポートを生成する際、「ファイル順」または「配列順」でレポートを表示することができます。概して、データを収集したり継ぎ手マップを作成したりする際には、「ファイル順」が便利です。収集済みのデータをレビューする際には、「配列順」を選択した状態で継ぎ手マッピングレポートを実行するのがよいかもしれません。

継ぎ手マッピングと出来形測量の向上

大きい継ぎ手マップファイルの使用時のシステムが向上しました。継ぎ手IDが以前継ぎ手マッピング[®]に使用されたか否かのチェックする際や、出来形パイプラインの測定中に次の溶接IDを探す場合の処理速度が著しく速くなりました。

2地点間の逆数を計算するには

「座標計算」メニューから2地点間の逆数を計算できるようになりました。旧バージョンでは、Pipelinesアプリケーション内からは、マップからのみ逆数を計算することが可能でした。

解決された問題

- パイプライン属性を伴うコピーされたポイント：あるジョブから別のジョブにポイントをコピーする際、それらのポイントに関連付けられたパイプライン属性レコードがコピー先ジョブにコピーされない問題が、解決されました。ポイントをコピーするには、「一般測量」メニューから、「ジョブ / ジョブ間のコピー」を選択します。
- 次の溶接部ID：「継ぎ手マッピング」画面を開いた直後に次の溶接部IDが入力された際、「後方の継ぎ手ID」および「前方の継ぎ手ID」が設定されない問題を解決しました。
- 新たな継ぎ手マッピング方法への変更：継ぎ手をマッピングする際、既存の溶接端、曲がり部、または開口端IDがない場合でも、マッピング方法を変更したり次の溶接端、曲がり部、または開口端IDを選択したりするとき、より容易に、次のIDフィールドへ移動の矢印を使用できるようになりました。
- ステータスのチェック：検数レコードが「チェックのみ終了」（フラグ数値1）とフラグ付けされるべきところで、「チェックおよび修正済み」（マスターインデックスIDXファイルでフラグ数値3を示す状態）としてフラグ付けされる問題が、解決されました。

パイプライン 検数と継ぎ手マップの更新ユーティリティ

一日の終わりに、複数のフィールド作業員から集められた検数および継ぎ手マップデータをオフィスでマスターファイルセットに統合するのに、Trimble Accessパイプライン検数と継ぎ手マップの更新ユーティリティを使用することができるようになりました。それからマスター検数ファイルは各現場作業員に送られ、翌日の作業に使用されます。すべての統合されたデータを含むXMLファイルもカスタムレポートフォームを生成するのに使用することができます。

ユーティリティはwww.trimble.com/Survey/Trimble-Access-IS.aspxから右側にあるダウンロードをクリックし、Trimble Accessパイプラインセクションまで進んでください。

このユーティリティは時折更新されます。最新の更新情報およびユーティリティの初回リリース以降すべての更新を確認するには、ユーティリティダウンロードファイルのパイプライン検数と継ぎ手マップ更新ユーティリティリリースノートの文書をご参照ください。

旧Trimble Accessバージョンのリリース以降、以下のユーティリティーへの更新が行われています:

2016年 2月 5日

- Checking the master and new joint map files: During joint map checking (carried out when previewing the update operation or when carrying out an update operation), the Tally and Joint Map Updater utility now checks through all weld joint maps in the master joint map file and new joint map file (if present) to ensure that a joint ID is not referenced as a joint ahead or a joint behind more than once.

2016年 2月 5日

- マスター継ぎ手マップファイルのチェックと編集: プレビューおよびロギングレポートの内容が拡張され、重複する定義を持つ継ぎ手マップの記録も含むようになりました (溶接または開口端に別の継ぎ手マップIDがあるが、同じ継ぎ手IDが指定されている)。重複する定義がある継ぎ手マップは、重複するIDを持つ継ぎ手マップに加えてレポートされます。マスター検数ファイル編集のオプションが強化され、特定の継ぎ手マップ記録を削除することができるようになりましたので、重複する名前や定義を含むことが報告される継ぎ手マップ記録の問題を修正することができるようになりました。

2016年 2月 3日

- マスター タリ ファイル 편집: 이제 탈리 및 조인트 맵 업데이트 유틸리티에서 필요한 경우, 마스터 탈리 파일을 업데이트하기 위한 편집 버튼이 나옵니다. 필드에서 얻은 업데이트 정보로 마스터 파일을 업데이트한 뒤 편집을 클릭해 마스터 파일의 조인트 정의를 삭제하거나 마스터 파일의 조인트 ID를 이름 변경합니다. 그런 다음 평소대로 마스터 세트 파일을 각 컨트롤러에 복사합니다.

道路

新しい特長 と機能の強化

スキューのオフセットの杭打ち

グラフィック表示の選択画面から、新しいタップ&ホールドメニューオプションとして、「スキューのオフセットの杭打ち」が使用できます (Trimble、LandXMLおよびGENIO道路の場合のみ)。「スキューのオフセットの杭打ち」オプションを使用すると、スキュー部分で水平線形を基準にして位置を杭打ちできます。このオプションは、排水溝、橋台、および類似の特徴のうち線形に対して直角に並んでいないものを杭打ちする場合や、通常ならば線形に対して垂直に配置されるはずのオフセット杭打ちを、障害物があるためにスキュー角で配置しなければならないときに、特に便利です。スキューは、線形に対して直角な線の前方や後方へのずれにより、または方位角により、線形上の局を起点に定義されます。オフセット位置の高度は、選択された局における位置の高度からの勾配またはデルタにより、またはユーザが値をキー入力することで、定義されます。

マップ内のLandXMLファイルからの線形の表示

LandXMLファイル内の線形をマップ内で表示できるようになりました。これにより、線形を選択した後、下記を行うことが可能です:

- 道路アプリケーションを使用し、その線形を道路として杭打ちする。
- 一般測量を使用し、それを線形として保存または杭打ちする。

「1つ戻る」「1つ進む」ソフトキー

道路の構成要素を定義する際、一連の要素のうちの最初の要素の上に位置しているときには、「1つ戻る」ソフトキーが表示されなくなりました。また、一連の要素のうちの最後の要素の上に位置しているときには、「1つ進む」ソフトキーが表示されなくなりました。

解決された問題

- ポイント名のインクリメント: 「正確な標高」オプションを選択した状態で統合型測量スタイルを使用して道路を測量する際、初期設定以外の具体的なポイント名が入力されている場合、ポイント名がインクリメント（値の増加）しない問題を解決しました。
- 杭打ち最中の方位角値: 従来型機器を使用して道路を杭打ちする際、「方位角」ナビゲーション値が90度を超える場合、値が表示されない問題を解決しました。
- 杭打ち最中の進入距離: 従来型機器を使用して道路を杭打ちする際、「進入」距離ナビゲーションデルタが杭打ち中のポイントの詳細によって隠されてしまう問題を解決しました。この問題は、メニュー式の測量選択方法を使用して道路を杭打ちする際にのみ発生していました。
- 追加ポイント: 道路のレビュー時に追加ポイント（道路定義の一部として定義されている）が表示されない問題は解決されました。これは、追加ポイントが一つしかない場合や、追加ポイントの高さがステーションおよび追加ポイントのオフセットにおける道路表面よりも低い場合にのみ発生していました。
- ヒンジストリング名: GENIO道路を測量し、サイドスロープのヒンジストリングを編集する際、状況により、「ヒンジストリング」名が新規ストリング名に更新されないことがある問題を解決しました。
- 「投影がありません」の警告: ジョブの座標系が「投影なし/測地系なし」に設定されている場合、テンプレートを定義したり道路をレビューしたりする際に、「投影がありません。一部の特徴は表示されません。」というメッセージ警告が誤って表示される問題を解決しました。
- 位置の更新に時間がかかる: GENIO道路を測量する際、現在位置の更新に時間がかかる問題を解決しました。これは、特に長い道路や、ストリング数の多い道路の場合にのみ見られる問題でした。
- アプリケーションエラー: タブレット上で長いGENIO道路をレビューする際、画面上で空白スペースをタップすると、ソフトウェアがフリーズしたようになる問題を解決しました。

トンネル

解決された問題

- アプリケーションエラー: テンプレート要素を定義するために位置情報を測定・保存した後に、Escをタップしたときに時節見られたアプリケーションエラーは解決さ

れました。

Trimble Installation Manager

新しい特長

Upgrades are now faster

Upgrading from Trimble Access version 2015.20 and later to a new version is now faster due to changes to the process of upgrading the old files. In previous versions, all files in the Trimble Data folder were copied from the data collector and the required files were converted to the new version, before all files were then copied back onto the controller. From version 2016.00, only files that require conversion are copied, converted, and transferred back onto the controller. Files such as DXF files and geoid models that do not need converting are no longer copied on and off the controller.

Trimble Accessデータファイルインストール用のカスタムデータフォルダ

Trimble Installation Manager を使用し、ソフトウェアのインストール、アップグレードの一環として、または必要に応じて、カスタムTrimble Accessデータファイルをコントローラにインストールすることができるようになりました。

以下のユーザ 以下の場合にカスタムデータフォルダを使う可能性があります
の方は

販売代理店	<ul style="list-style-type: none">• 新しいコントローラをグループのお客様用にセットアップする• サンプルファイルを使ってデモ用にコントローラを設定する
カスタム	<ul style="list-style-type: none">• その組織で使用されている「標準」ファイルを使用して数台の新しいコントローラを設定する• 既存のコントローラを特定のプロジェクト向けに設定する

インストールできるファイルタイプには以下があります：

- 測量スタイル、ジョブのテンプレート
- 特徴コード線画
- コントロールファイル、DXF、線画
- カスタマイズされたレポート、またはantenna.datファイル

変換が必要なファイル（以前のバージョンのTrimble Accessからのジョブなど）は、新しいバージョンに自動的に変換されます。コントローラがアップグレードされたときも同様の方法で変換が行われます。

より詳しい情報につきましては、*Trimble Installation Manager* ヘルプのTrimble Accessデータファイルの管理をご参照ください。

Other changes

- Custom antenna files: The format of the on-board antenna file antenna.dat has changed. Custom antenna.dat files from previous versions of Trimble Access are not compatible with version 2016.00, and will not be copied during the Trimble Installation Manager upgrade process. Custom antenna.dat files from Trimble Access ソフトウェア version 2016.00 cannot be used with previous versions of the software. To use a custom antenna file in Trimble Access version 2016.00 you must re-upload the customized antenna.ini file using Trimble Business Center or Trimble Data Transfer after updating the office software components to work with Trimble Access version 2016.00

AccessSync

新機能

AccessSync転送速度

データの転送速度、および他のネットワークサービスのニーズを考慮する必要があるか選択することができるようになりました。オプションは以下の通りです:

- 最小:常に遅い速度でファイルを転送します。リアルタイム測量が固定局データのために接続を使用している場合には、すべてのファイルの転送を保留します。インターネット接続が遅い場合、または速度に制限がある場合にはこれを使用します。
- アダプティブ:インターネット接続が使用されていない場合には、ファイルを中程度の速度で転送し、他のアクティビティと接続を共用している場合は速度を低くします。このモードの動作は、接続のタイプや容量によって変わります。
- 最大:接続の最も速い速度でファイルを転送します。インターネット接続の容量が高帯域幅に対応できない場合には、他の機能も接続を使用していたら、スループットが低下する場合があります。

解決された問題

- 画像のダウンロード: AccessSyncが背景画像ファイルを正常にダウンロードした後も繰り返しダウンロードを実行する問題を解決しました。

GNSS予想

解決された問題

- 報告された衛星の数が十分ではありません: GPS衛星の捕捉が有効になっていないときに正しくない衛星状況が報告される問題を解決しました。

インストール情報

このセクションには、Trimble Accessソフトウェアのバージョン 2016.00のインストールに関する情報を掲載しています。

コントローラのソフトウェアとライセンスのインストール

オペレーティングシステムのインストール

新しいTrimble Tabletにはオペレーティングシステムはインストールされていません。Tabletを起動してWindows®オペレーティングシステムをインストールし、Windowsの更新を適用します。

他の全ての新しいコントローラには、オペレーティングシステムはすでにインストールされています。

ソフトウェアとライセンスの設定

コントローラをご使用になる前には必ず、Trimble Installation Managerを使用して、アプリケーションとライセンスをインストールしてください。もし今までに:

- Trimble Installation Managerインストールマネージャーをインストールしたことが決した場合、www.trimble.com/installationmanagerからインストールのための情報をご参照ください。
- Trimble Installation Managerインストールマネージャーをインストールしたことがある場合は、自動的に更新しますので、再インストールの必要はありません。スタート / すべてのプログラム / Trimble Installation Managerを選択し、Trimble Installation Managerを起動します。

詳細に関しては、Trimble Installation Managerのヘルプをクリックします。

メモ - Trimble CU コントローラでは、Trimble Access バージョン 2013.00 またはそれ以降を、Trimble CU モデル3 (S/N 950xxxx)のみにインストールすることができます。Trimble CUモデル1と2には、以降をサポートするのに十分なメモリがありません。

バージョンの使用条件

Trimble Access ソフトウェア バージョン 2016.00をインストールして起動するには、14月2016で有効な保証契約が必要です。

Trimble Installation Managerを使用してバージョン 2016.00をアップグレードする際、新しいライセンスファイルがデバイスにダウンロードされます。

オフィスソフトウェアの更新

バージョンに更新した場合は、オフィスソフトウェアも必ず更新してください。この更新はTrimble Business CentreソフトウェアなどのTrimbleオフィスソフトウェアに一般測量ジョブをインポートする場合に必要です。

Trimble Installation Managerを使用してコントローラを更新する場合、Trimble Installation Manager がインストールされているコンピュータのオフィスソフトウェアも同時に更新されます。

更新に使用されなかった他のコンピュータを更新するには、以下のいずれかを行います：

- Trimble Installation Manager をそれぞれのコンピュータにインストールし、Office Updatesを起動します。
- Trimble Access ソフトウェアのソフトウェアのTrimble Update Office Softwareパッケージを www.trimble.com/support_trl.aspx?Nav=Collection-84862から起動します。
- Trimbleデータ転送ユーティリティを使用します：
 - バージョン1.51以降をインストールして下さい。データ転送ユーティリティは www.trimble.com/datatransfer.shtmlからインストールすることができます。
 - バージョン 1.51をお持ちの場合は、データ転送ユーティリティの新しいバージョンを更新する必要はありません。Trimble Update Office Softwareパッケージのどれかを www.trimble.com/support_trl.aspx?Nav=Collection-84862から起動することができます。
- 必要なコンバータは現在 Trimble Access ソフトウェア を起動しているコントローラで入手でき、必要でしたら、 Trimble Business Centerソフトウェアでコントローラからコンピュータへコピーすることができます。必要なコンバータは現在 Trimble Access ソフトウェア を起動しているコントローラで入手でき、必要でしたら、 Trimble Business Centerソフトウェアでコントローラからコンピュータへコピーすることができます。

Trimble Solution Improvement Program

Trimble Solution Improvement Programは、Trimbleのプログラムがいかに使われ、どのような問題が発生する可能性があるかなどの情報を収集しますTrimbleは、この情報をもとに、最も頻繁に使用される製品や機能の向上に役立て、問題解決のお手伝いをし、お客様のニーズにお応えします参加は任意で強制ではありません。

参加を選択すると、ソフトウェアがお手持ちのコンピュータにインストールされますそのコンピュータに、Microsoft ActiveSync® 技術やWindows Mobile® Device Centerを利用してコントローラを接続するたびに、Trimble Access ソフトウェア がログファイルを生成し、自動的にTrimbleサーバへ送ります。このログファイルには、Trimble機器の用途、特定の地理的地域内でよく使用されるソフトウェア機能、問題が発生する頻度などのデータが含まれており、Trimbleが製品の修正に役立たせて頂きます。

Trimble Solution Improvement Programはいつでもアンインストールすることができます Trimble Solution Improvement Programの参加中止をご希望の場合は、コンピュータのプログラムの追加と削除メニューからソフトウェアの削除を行なうことができます。

ヘルプと資料に関して

は、Trimble Access ヘルプ「文脈対応」ヘルプです。「文脈対応」ヘルプにアクセスするには、画面上部の ? をタップして下さい。

ヘルプ項目のリストが表示されます。関連項目は反転表示されています。見たい項目を開くには、その項目名をタップします。

ヘルプのPDFファイルをダウンロードするには、 <http://apps.trimbleaccess.com/help>へアクセスして下さい。アプリケーションごとに異なるPDFファイルがあります。

ソフトウェアとハードウェアの必要条件

Trimble Access ソフトウェア バージョン 2016.00 は、以下にあるソフトウェアとハードウェア製品との通信に最適です。このソフトウェアは以下のバージョン以降のソフトウェアとも通信することができます。

Trimble ソフトウェア	バージョン
----------------	-------

Trimble Business Center (32-bit)	2.99
Trimble Business Center (64-bit)	3.70

Trimble 受信機	バージョン
-------------	-------

Trimble R10	5.11
Trimble R8s	5.10
Trimble R2	5.11
Trimble R8-3, R8-4	5.10
Trimble R6-4, R6-3	5.10
Trimble R4-3, R4-2	5.10
Trimble R9s	5.11
Trimble NetR9 地理空間	5.10
Trimble R7	5.00
Trimble R5	5.00
Trimble Geo7X	4.95
Trimble GeoXR	4.55
Trimble R8-2, R6-2, R4-1	4.64
5800, 5700 II	4.64

Trimble 機器	バージョン
------------	-------

Trimble V10イメージンググローバル	E1.1.70
Trimble VX™ Spatial Station	R12.5.48
Trimble S5/S7/S9トータルステーション	H1.1.14
Trimble S8トータルステーション	R12.5.49
Trimble S6トータルステーション	R12.5.49
Trimble S3トータルステーション	M2.2.23

テーション

Trimble M3 トータルズ V2.0.4.4
テーション

最新のソフトウェアとファームウェアのバージョンについては、下記もご参照ください。

<http://trl.trimble.com/dscgi/ds.py/Get/File-93082/Survey%20Software%20and%20Firmware.pdf>.

対応するコントローラのオペレーティングシステム

Microsoft Windows Mobile Version 6.5 Professionalを搭載したTrimble TSC3コントローラは、Trimble Accessソフトウェア バージョン1.8.0から2011.10を実行することができます。

Microsoft Windows Mobile Embedded Handheld 6.5を搭載したTrimble TSC3コントローラには、Trimble Accessバージョン2012.00以降が必要です。